

第1回 京都文学レジデンシー

Kyoto Writers Residency 01

One day my mother said she'd had enough. She used a position of clawfoot bathtub online. The delivery men placed the bathtub in the yard still early in the morning. My mother had recently lost her job, and she'd spent a great deal of time watching the yard's growth because starting a growing series for another minute. My father is looking for another mother. My mother, meanwhile, had begun to pump up the popped up out of nowhere in to my yard. She had the on the table or if not poisonous than at least ugly, or if not ugly, at least too phallos. When the clawfoot bathtub arrived, my mother said, "Go away!" I half-way up with fresh soil. Sweat beaded the small fine hairs on the She took off her clothes and stood naked in the yard. I could see the caesarian when the motor had opened in my yard to light out from climbed into the tub of soil. She closed her eyes. She let out a long this, my mother told me. It was old. We must wash the

# 裂け目と文学

オープニング・フォーラム

Opening Forum  
Writing (in) Disruptions

参加者:

アンナ・ツイマ

Anna Cima

大前粟生

Ao Omae

エミリ・バリストリエリ

Emily Balistrieri

アルフィアン・サアット

Alfian Sa'at

ユベール・アントワヌ

Hubert Antoine

ポーラ・モリス

Paula Morris

イメージテキスト:  
"Organic Matter"  
Lee Conell  
"AFFECTUEUSE INFECTION"  
Emmanuel Bueya  
「とある生きもの」  
イングヴァル・シャースタイン作 | 田中玲子訳  
"Pretending to be in Dessau"  
Mara Genschel  
「私の日々」  
シルバ・ディーグシット・タブリャル | 中村仁美訳  
「小樹」  
デイジー・ラファージ | 吉田恭子訳

2022年10月2日[日] 15:00-17:00(開場14:30)

香老舗 松栄堂 薫習館

無料・要事前申込 | 対面およびオンライン配信を予定  
<https://forms.gle/5rcu9MVVvkPCpRVTK9>



主催: 京都文学レジデンシー実行委員会  
共催: 立命館大学国際言語文化研究所 / 龍谷大学国際社会文化研究所八幡プロジェクト / 京都芸術大学  
協賛: 香老舗 松栄堂 / DMG森精機株式会社 / ワコールスタディオホール京都  
助成: ヘルギー王国フランス語共同政府国際交流振興庁 後援: 京都市 / 文化庁 共同プロデュース: MUZ ART PRODUCE / CAVA BOOKS



# 裂け目と文学

Opening Forum  
Writing (in) Disruptions

## Opening Forum Writing (in) Disruptions

2020年以降、わたしたちは困難な時代を生きてきました。  
感染症、交通の遮断、そして戦争。人との距離感に変容せざるを得ず、それは連続した生に走る亀裂、裂け目のようです。  
ただ、その亀裂をくつつけるテクノロジーも急速に発展しています。  
文学者は現代の亀裂、裂け目をどうとらえるのか。  
何を書き、何を書かずにいるのか。  
ここ、京都文学レジデンシーに裂け目を越えて集まった人々と語り合います。

In the age of global disruptions, what do writers capture?  
What do they write about? And what do they not write about?  
The inaugural Kyoto Writers Residency welcomes everyone  
to gather over fissures and ask writers to share their thoughts.

2022年、第1回 京都文学レジデンシー(参加者は10月1日から21日まで滞り)の  
ウェブサイトはこちら。進行中のイベント情報など、随時更新中。  
<https://kyotowriters.org/kwr01/>



京都文学レジデンシー発行の雑誌、『TRIVIUM』刊行

誌上での文学者の交流を実現した雑誌「TRIVIUM(トリヴィウム)」が販売中です。人気作家テジュ・コールの美しい写真とエッセイに始まり、世界各地の書き手たちによる作品、京都文学賞のグレンゴリー・ケズナジャットのエッセイ、日本翻訳大賞受賞の福嶋伸洋セレクトの詩と解題も。さらには、イギリス作家たちと谷崎由依、マーサ・ナカムラが往復書簡形式で作品をやりとり。歴史と痕跡をテーマとする写真家・大坪晶の論考、円城塔・福永信・澤西祐典による鴨川文学トーク&作品競演など、バラエティに富む充実の内容です。  
翻訳者たちも一流。詳細、お求めはCAVA BOOKSのこちらのページから。  
<https://cavabooks.thebase.in/items/60769254>



寄老館 松榮堂

## 薫習館

KUNIYUKAN

京都市中京区烏丸通二条上ル東側 ※駐車場あり  
Tel: 075 212 5590 営業時間10:00-17:00(不定休)  
・地下鉄 烏丸線 丸太町駅7番出口 徒歩3分  
・地下鉄 烏丸線、東西線 烏丸御池駅1番出口 徒歩5分

## アンナ・ツィマ

Anna Cima



© Barbora Maršáček Votavová

小説家・翻訳家。チェコ・ブラハ生まれ。現在東京在住。2018年に長編小説『シブヤで目覚めて』でデビューし、マグネシア・リテラ新人賞などを受賞。複数の外国語に翻訳され、邦訳も刊行された(阿部賢一・須藤輝彦共訳)。「うなぎの思い出」が9月にチェコで刊行。訳書に高橋源一郎『さようなら、ギャングたち』(共訳)など。

## エミリ・バリストリエリ

Emily Balistrieri



© 本人の右手

日英文芸翻訳者。米国ウィスコンシン州出身。東京生活10年間を経て、現在は大阪に拠点を置く。英訳に森見登美彦『四畳半神話大系』や『夜は短し歩けよ乙女』、角野栄子『魔女の宅急便』、朽木祥『光のうつしえ 広島ヒロシマ 広島』など。

## ユベール・アントワヌ

Hubert Antoine



© Lucile RONVELUX

詩人、小説家。詩集5編、随筆集、短編小説集のほか、ガリマル社から *Les formes d'un soupir* ほか長編小説2編を出版している。ベルギーで最高位の文学賞ロッセル賞をはじめ受賞多数。26年間メキシコに暮らしたのち、2022年にベルギーに帰国。

## 大前粟生

Ao Omae



小説家。著書に『きみだからさびしい』『死んでいる私と、私みたいな人たちの声』など多数。短歌、絵本など活動は多岐に渡る。23年に『ぬいぐるみとしゃべる人はやさしい』が映画化、エミリ・バリストリエリ訳で英訳版がHarper Collinsから刊行予定。

## アルフィアン・サアット

Alfian Sa'at



© Rachel Ng

小説家、詩人、劇団Wild Rice座付劇作家。シンガポール在住。著書に短編小説集『サヤン、シンガポール』(幸節みゆき訳)、『マレー素描集』(藤井光訳)、詩集に *One Fierce Hour*、*A History of Amnesia*、戯曲集など。

## ポーラ・モリス

Paula Morris



© Colleen Maria Lenihan

ニュージーランドのオークランド出身のマオリ族小説家・エッセイスト。長編 *Rangatira* でニュージーランド・ポスト文学賞受賞。エッセイ集 *False River* では世界中の都市における人種、ディアスポラ、移動の問題を取りあげている。オークランド大学准教授。